

日本洋書協会会報

BULLETIN OF JAPAN ASSOCIATION
OF INTERNATIONAL PUBLICATIONS

目次

- 理事会報告／海外ニュース1
- 第15回東京国際ブックフェア.....2
- 医図協総会3
- Special Libraries Association 2008に参加して ...4
- 委員会報告／事務所移転のご案内5

理事会報告

2008年6月11日

1. 活動予定の具体化

- ①業種別等のグループ（SIG）を作り、共通の問題について討議を行う。委員長会議でグループ案を作成する。
- ②サマーパーティーの前に協会（業界）関連のパネルディスカッションを若い人向けに行う。齋藤氏、菅野氏、山川氏にパネラーをお願いし、司会は理事長が行う。
- ③海外出版社の来日の際、出版動向等のセミナーをお願いする。細谷さん等出版社の訪れる会員に事前の情報提供をお願いする。

④各理事も自社の活動内容（書籍、外国雑誌、古書等）で新人向け研修会をひらく。

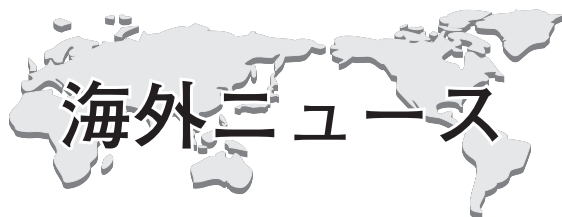
⑤成田空港、国会図書館、トーハンなどの見学会を行う。会報・広報委員会が行う。

⑥新規

海外出版社向けに日本のマーケット情報を収集、分析する。分野別だけでなく、Print/electric/e-contentsなどの媒体別でも行う。

2. 事務所の移転

移転時期は7月中。什器は処分する。



◆◆ 絶版書のオンデマンド出版プログラム

American Booksellers Association (ABA 全米書店協会) は、Applewood Booksと提携して、絶版書のオンデマンド出版プログラムを開始すると発表した。

このプログラムでは、ABAメンバー書店が、既に絶版となった書物（地方出版物など）で、著作権が著者に帰還しているものを、50から70パーセントのマージンで販売することが可能になる。

「このプログラムは地方の書店が利益率の良い商品販売することで、地域に密着することを可能にする」とABAの担当者は言う。「書店は、地域で出版されながら絶版になってしまった良書を再出版し、販売することで、他では手に入らない情報を地域に提供できるのだ」

提供：丸善海外仕入部

第15回東京国際ブックフェア

去る7月10日（木）～13日（日）の4日間第15回東京国際ブックフェアが前年同様ビッグサイト西館で開かれました。今年はオフィス機器、デサントファミリーセール等と開催時期が重なり初日からかなりの人混みだったようです。主催者側からは昨年比10%5,400人の増加、4日間で6万人を突破し過去最高との発表がありました。

初日9時40分、例年どおり多くの報道陣が詰め掛ける中、オープニングセレモニーの後、テープカットが行われ当協会からは今年もグレシャム理事長が参加しました。

各社ブースを回ってみるとやはりデジタルパブリッシング等の台頭が目立ち純粋に本だけを展示している出版社が少なくなり、逆に一般公開日には定価の20%オフでセールをする出版社が増えて来て再販制の意義とは？と感じました。

さらに会場を見てみるとアジアからのブースは確かに増加しているのですが、欧米からの出展は減少の一途をたどっているようにも思えました。世界30ヶ国770社の国際ブックフェアの位置付けという点ではかなり寂しい気がしましたし

主催者側や当協会からのアジア以外の出版社の招聘が急務だと思います。

さて協会主催のバーゲンコーナーですが、昨年よりワゴンの割り当てが20台減少し60台になりました。さすがに今年は売りが大幅ダウンするだろうと思っていましたが、何とか18%の下げ幅で済むことが出来ました。各出展社のワゴン割り当て数が減った為、ただバーゲン商品を出品するのでは無くその内容を考慮し売上げ増を目指した結果だと思います。来年もスペースが狭くなる可能性があります1冊でも多く洋書がこの日本に行き渡る様に頑張ります。我々は文化の担い手であり日本と世界を結ぶ架け橋なのですから。

最後にこの洋書バーゲンに携わった全ての皆様、誠にご苦労さまでした。

（UPS 高橋）



バーゲン会場



開会式でのテープカット風景、前列左から二人目が秋篠宮殿下と紀子様、前列右がグレシャム理事長、後列真ん中が小城丸善社長と松原紀伊國屋書店会長

第79回NPO法人 日本医学図書館協会総会 に参加して

～洋書流通業界からの視点で～

5月29日（木）～5月30日（金）までの2日間、札幌の京王プラザホテル札幌で第79回NPO法人日本医学図書館協会総会が開催され、医学図書館関係者約200名が参加されました。展示会には洋書取次ぎ業者としてユサコ、丸善、紀伊国屋、サンメディア、南江堂が、海外の出版社としてThieme、Elsevier、Springer、Wiley-Blackwell、Ovid/LWW、Thomson Reuters、Nature、ProQuest、また国内出版社としてメテオ、医中誌、JSTなどが出展されておりました。

総会のメイン会場は2Fのエミネンスホール、展示会はB1のプラザホールでした。当初メイン会場の2Fから展示会場のB1へ数多くの方が足を運んでくれるか心配しておりましたが、幸いにも展示会場の中にドリンクコーナーを設けられていたおかげで、全体的に人の流れは多かったようです。この件に関しましては、今回の幹事校である北海道医療大学関係者を中心としたスタッフの方々のご配慮の賜物と感謝いたしております。短い休憩時間の中で、会場に足を運んでくれた方々は、休む間もなく情報収集をされておられたようです。なかでもリンクリゾルバ、E-Learning系のブースに関心が集まっていたようです。

今年の総会のテーマは、「地域における保健・医療情報の提供を考える」です。患者、医療従事者、図書館の三者の情報共有の重要さや課題について、各分野の方々がそれぞれの立場から意見を発表されておりました。医学図書館が、患者主体の医療と地域医療の実現に必要な情報提供の担い手



として認識されており、そこに情報提供をさせて頂いている私たちの任務の重要性を改めて痛感させられました。このように私たち洋書輸入業者は医療の現場における患者、医療従事者、図書館を結ぶ重要な架け橋であることの責任を痛感いたしました。

最後に、今回の日本医学図書館協会総会が北海道で行われたこともあり、懇親会の料理にタラバガニ、毛ガニが振る舞われましたが、日ごろお会いできないお客様との会話に夢中になり、カニを食べ損ねた事が唯一の心残りです。また、7月7日（月）から9日（水）にかけて開催される洞爺湖サミットの準備が至るところで着々と進んでいることを実感しながら札幌を後に致しました。

ユサコ株式会社
ライブラリーアンドエージェント事業部 松下豪太

Special Libraries Association 2008 に参加して

2008年6月15日～18日、米国シアトルにて Special Libraries Association（以下SLA）が開催されました。

米国で、日本の専門図書館協議会や医学図書館協会にあたるのが、SLAとMLA（Medical Library Association）にあたります。SLAは、対象として一般書などの展示ではなく、企業・政府機関等を対象とした、科学技術・ビジネス・法律などを中心に構成され、このような分野に関わる業者にとっては非常に参考となる展示であると感じました。

会場は、ワシントントレードコンベンションセンター、出展者は250社以上で、来場者は6,000人を越え、大手出版社のみならず、シアトルという土地柄からITベンチャーの出展もありました。

日本の展示会と比較した観点で今回参加しましたが、個人的にはそこまで大きな差を展示内容からは感じ取ることが出来ませんでした。しかし、来場者に対するコンタクトは、日本よりもかなり積極的な印象を受けたし、6,000人ほどの来場に

ては、各ブースで積極的なディスカッションが行われている印象を持ちました。

来年100周年を迎えるワシントンD.C.での開催については、かなり華やかな内容となると思われますが、今回の展示内容からは、真新しいものは特に無いように感じました。

オープニングセッションで、インターネット創始者の一人、Vinton G. Cerf氏がスピーチしたということからも、図書が電子化という時代を象徴しているように感じましたし、セカンドライフへの図書館としてのイニシアチブの話題があがった事からも、他業界でも話題になっている動きでもあり、非常に興味深いのが、ますますバーチャル世界が広がる様相で、まだまだ変化は続くのだろうと感じました。

今回、私は初めてのアメリカ訪問となりました。アメリカの印象は、自由の国、アメリカンドリーム、禁煙大国、健康志向などの先入観がありましたが、町並みを散策しても細かい部分は文化の違いが垣間見えるも、さほど日本と大きく変わらないように思いました。しかし、目が合えば「Hello」、町でぶつかると「Sorry」、ぶつかる前には「Excuse Me」、ドアを開けたり道を譲ったりすると「Thanks」が自然に出てくる。日本、特に東京では無くなってしまった人間味、暖かさ、陽気さを感じました。メジャー観戦時のブーイング、ボリュームある食事、素直な人間模様を肌で感じ取り多くを学んだ出張でした。



ユサコ株式会社

ライブラリーアンドエージェント事業部 笠井俊和

第55回 麻雀大会

2008年6月6日（金） 新宿 嵯峨野にて
参加者 16名 参加社数 11社

<成績表>

順位	氏名（社名）	1回戦	2回戦	3回戦	合計
優勝	岡田（幸洋商事）	54	- 9	39	84
準優勝	中村（阪神A C）	28	50	- 21	57
3位	西山（麻）（西山洋書）	- 16	52	- 4	32
4位	鶴（三）（東亜ブック）	- 12	- 10	49	27
5位	鶴（竜）（東亜ブック）	24	- 27	30	27



次回（第56回）の開催は2009年2月の予定です。皆様のご参加お待ちしております。

事務所移転のご案内

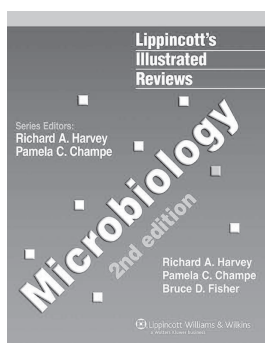
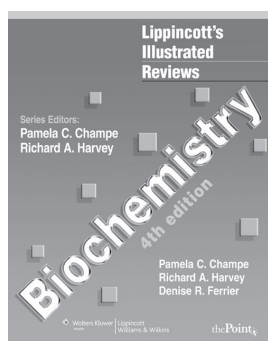
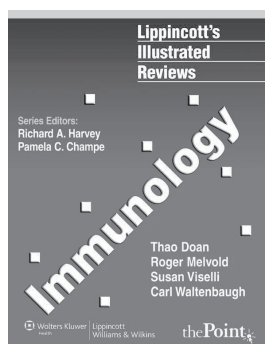
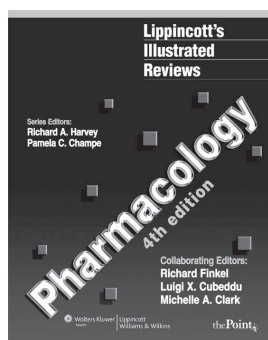
事務所を下記に移転いたしました。

〒140-0002 東京都品川区東品川1-32-5 U. P. S. 内
Tel : 03-5479-7269
Fax : 03-5479-7307

8月4日（月）から事務を開始いたします。

事務局

Increase the speed and depth of your learning...



難解な基礎医学の概念の習得を目的とした、世界的なベストセラー "**Lippincott's Illustrated Reviews**" シリーズ。ポイントを明解に示し必須事項を視覚的に提示することによって、大量の複雑な情報を迅速にレビューし、理解し、統合することができる。

【本シリーズの特徴】

- ・箇条書き形式
- ・注釈付きのフルカラーの図版
- ・章末の要約と USMLE 形式の復習問題
- ・シリーズの他の巻との相互参照
- ・基礎科学を実際の臨床場面に結びつけるケーススタディ

【オンラインリソース】

LWW 社の本書関連ウェブサイトでは、**検索可能な本編全文**、学生に向けた **USMLE 形式の追加問題**、教官がパワーポイントで自身の図に利用できる **画像集** を **オンラインで無料提供** する。

Pharmacology, 4th edition **NEW**

560 pp. 570 illus. 2008 ISBN 978-0-7817-7155-9 ¥8,358

Biochemistry, 4th edition **NEW**

520 pp. 645 illus. 2008 ISBN 978-0-7817-6960-0 ¥8,893

Immunology

321 pp. 320 illus. 2007 ISBN 978-0-7817-9543-2 ¥7,885

Microbiology, 2nd edition

438 pp. 600 illus. 2007 ISBN 978-0-7817-8215-9 ¥6,604

続刊予定

Physiology	Apr. 2009
Drug Therapy	Jan. 2010
Cell and Molecular Biology	Feb. 2010
Pathophysiology	Mar. 2010

*価格は予告なく変更することがあります



Wolters Kluwer
Health

Lippincott
Williams & Wilkins

ウォルターズ・クルワー・ヘルス・ジャパン

〒113-0033 東京都文京区本郷3-23-14
TEL: 03-5689-5400 FAX: 03-5689-5402
e-mail: tmurayama@wkhjapan.co.jp